

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-332	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
Adjunctive aripiprazole therapy with escitalopram in patients with co-morbid major depressive disorder and alcohol dependence: Clinical and neuroimaging evidence. 大うつ病性障害とアルコール依存をもつ患者に対するエスシタロプラムにアリピプラゾールを補助的に併用する治療：臨床および神経画像処理のエビデンス		
執筆者		
Han DH, Kim SM, Choi JE, Min KJ, Renshaw PF.		
掲載誌		
J Psychopharmacol. 2013 Mar;27(3):282-91. doi:		
キーワード		
<p style="text-align: center;">要 旨</p> <p>目的： 鬱病の有効な治療はアルコール摂取の重症度を減らすことが報告され、潜在的に脳の報酬的回路の改善を反映している。エスシタロプラム単独での治療と比較して、アリピプラゾールとエスシタロプラムの併用治療が抑うつ症状を改善し、ならびに共存症のアルコール依存症と大うつ病性障害患者でアルコールと cue 誘発脳活動の熱望を減らすとの仮説をたてた。</p> <p>方法： 大うつ病性障害とアルコール依存症の 35 人の被験者を対象とし、17 人のアリピプラゾール+エスシタロプラム群と 18 人のエスシタロプラム単独群にランダムに割り当てた。試験開始時と、6 週間の治療の後、鬱病の症状、アルコールの渴望感と脳活動を評価した。</p> <p>結果： 6 週間の治療期間の間に、ベックうつ病調査表と臨床的グローバルインデックス-重症度 (CGI-s) のスコアは、アリピプラゾール+エスシタロプラム群とエスシタロプラム群の両群で減少した。加えて、治療期間の後、韓国のアルコール衝動のアンケート・スコアがアリピプラゾール+エスシタロプラム群で 23.3+/-8.4 から 14.3+/-4.9 に低下し、エスシタロプラム・グループ群の 21.6+/-8.4 から 19.3+/-7.1 への低下と比較して有意な改善であった (F=13.1, p < 0.01)。飲酒場面を見せて反応する前帯状での脳活動度は、アリピプラゾール+エスシタロプラム群で治療後に増加した。左前帯状回の中の脳活動の変化は、すべてのアルコール依存症と大うつ病性障害の共存患者におけるアルコールの渴望への変化と負に相関していた。</p> <p>結論： これらの所見は、脳皮質の前帯状に対するアリピプラゾールの作用が大うつ病性障害をもつアルコール依存症患者に対する治療の成功を媒介するかもしれないことを示唆する。</p>		